

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>煙山ダムは、当該ダムの下流1,471.1haの防災を主目的として昭和43年に国営土地改良事業により造成されたダムであります。</p> <p>竣工から48年が経過したこと及び東日本大震災以降地震が多発したことを受け、ダムの管理事務所下部のコンクリートに亀裂が発生し、取水施設においてゲートの腐食等の劣化が著しくなっております。</p> <p>また、平成25年の大雨災害時、ダムに流木が流れ着き、ゲート操作に支障が生じたことから、網場（流木止設備）の整備が不可欠となっております。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>本町で管理している煙山ダムの国営土地改良事業による早期の改修及び当該ダム内の網場の整備について、県からも国に対し強く要請くださいますよう要望いたします。</p> <p>また、大規模な改修工事を行う上では多額の費用を要することとなり、整備に当たっては町単独で対応することが困難な状況であることから、国及び県の負担額（率）の増額見直しについても強く要望いたします。</p>	<p>煙山ダムの老朽化対策等の必要性については、県も同じ認識です。このため、これまでも国に対して早期着工を要望してきたところであり、今後とも、機会あるごとに、要望していきます。</p> <p>国営事業に係る負担割合については、国が示している負担割合のガイドラインを基本に、これまでの負担実績を勘案しながら関係機関で協議を進めていきます。</p> <p>なお、現在国では、事業計画の策定を進めており、県としてはコスト縮減の徹底等により地元負担の軽減に努めるよう、要望していく考えです。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>農政部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一般県道大ケ生徳田線は、国道4号と国道396号を連絡する主要幹線道路であるとともに、盛岡広域都市圏の南東部や紫波町から北上川を渡河し、盛岡市中心部や矢巾町への相互連携を図るために重要な役割を担う路線であります。当該橋は、昭和37年に架橋され幅員5.5mと狭隘で老朽化による損傷も著しく、周辺市街地の整備による交通量が増加傾向にあり、平成23年度から徳田橋架け替え事業が着手されています。</p> <p>岩手医科大学附属病院は、現在の盛岡市内丸に診療機能を一部残し、大学及び高度救命救急センター及び入院病棟が、平成31年9月の開院に向けて矢巾町藤沢地区に工事が進められているとともに、近隣市町村との連携をはじめ、岩手医科大学附属病院へのアクセス強化が求められています。</p> <p>つきましては、物資流通、医療の補完など沿岸部と内陸部を効率よく繋ぐ重要な幹線道路としてその役割を担っていることから、幅員の狭隘かつ老朽化が進んでいる徳田橋の架け替え及び一般県道大ケ生徳田線の未整備区間の整備について、早期に完成していただきますよう要望いたします。</p>	<p>現在の徳田橋は老朽化が著しく、かつ橋梁部及びその前後の道路区間は、幅員狭小で大型車の円滑な交通に支障をきたしており、また岩手医科大学附属病院等が矢巾町に移転することに伴い、交通アクセスの利便向上を図る必要があることから、平成23年度に橋梁架替事業に着手し、昨年度まで地盤調査や景観検討、道路及び橋梁の詳細設計、用地測量、補償物件調査、用地補償等を進めてきたところであります。</p> <p>今年度は、徳田橋架替えに伴う最初の工事となります基礎工及び橋脚工2基の工事を進めたところであり、引き続き整備推進に努めていきます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	A
<p>国道46号盛岡西バイパスは、本町と県都盛岡市を結ぶ重要な放射道路として位置づけられており、また、近隣には北東北の物流の集積地である岩手流通センター、JR盛岡貨物ターミナル、盛岡市中央卸売市場が存在し、盛岡広域都市圏の物流の拠点となっており、岩手医科大学附属病院についても、平成31年9月の開院を目指して、着々と工事が進められております。</p> <p>現在の盛岡西バイパスは、主要地方道上米内湯沢線の交差点から国道4号へアクセスしている状況であり、本町と盛岡市境に在る物流拠点とのアクセス、更には北東北の高度医療施設である岩手医科大学附属病院へのアクセスを考慮した国道4号までの南進整備について要望いたします。</p>	<p>一般国道46号「盛岡西バイパス」は、平成25年12月に全線暫定供用開始したところですが、一般国道4号の盛岡南IC入口交差点以南においては、慢性的に混雑しているとともに、平成31年9月には三次救急医療も担う岩手医科大学附属病院が移転する予定となっており、更に交通量の増加が見込まれ、渋滞の発生が懸念されています。一般国道4号の混雑緩和と県内地域医療の中核を担う医療機関へのアクセス確保を図るため、引き続き一般国道46号「盛岡西バイパス」の2車線区間の早期4車線化及び矢巾町方面への延伸について国に対し要望してまいります。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>本町を縦横断する一級河川岩崎川、太田川、芋沢川の基幹河川は、平成4年度に事業認可を受け、平成28年度末には事業費ベースで52.1%の進捗率で河川改修事業が進められております。</p> <p>近年、市街化区域の急速な整備から人口増加に顕著であり、町立小中学校、県立高等学校、県立産業技術短期大学校等、教育施設の整備が進んでいるほか、矢幅駅を中心とする矢幅駅周辺土地画整理事業区域には大型ショッピングセンターや住宅地が形成され、中市街地として整備が進んでいます。また、岩手医科大学の総合移転事業も着実に進んでおり、雨水流出量が今後とも増大することが想定されます。</p> <p>平成25年の大雨・洪水を受け、岩崎川は一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業として平成26年度から事業採択となり整備されることとなりましたが、太田川、芋沢川につきましても過去に何度となく河川の氾濫による越流や河川施設に被害を受け、住宅地の浸水や農地への被害が発生しておりますので、本河川基幹改修事業の整備促進を図られますようお願い申し上げます。</p>	<p>岩崎川は、平成4年度から河川改修事業に着手し下流側から順次河道掘削、築堤、護岸及び橋梁等の工事を進め、北上川合流点から芋沢川合流点までの5.3km区間が完成しています。</p> <p>芋沢川合流点から一般県道不動盛岡線までの約2.6km区間については、平成26年度に床上浸水対策特別緊急事業として新規採択され、平成27年7月に芋沢川合流点から改修工事に着手しており、順次上流に向け工事を進めています。</p> <p>太田川については、広域河川改修事業により実施することとしており、平成29年度は河川測量や地質調査等を実施する予定です。</p> <p>芋沢川については、これまでどおり広域河川改修事業により実施します。特に平成25年8月の豪雨により浸水被害のあった薬師神社付近については、農業用施設の堰の改修に関する関係者との協議を進めており、早期に対応したいと考えています。</p> <p>今後、貴町をはじめ関係機関と連携しながら早期の整備に取り組めます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	A
<p>本町及び紫波町を縦横断しております岩崎川については、東北本線までを事業区間とする一級河川岩崎川基幹河川改修事業により平成4年度に国の事業認可を受け河川改修事業が進められておりましたが、平成25年8月の大雨・洪水により、周辺住宅地の床上、床下浸水や農地への冠水など甚大な被害をもたらしました。</p> <p>東北本線上流約1.5kmを延伸した区間を平成26年度に「一級河川岩崎川床上浸水対策特別緊急事業」として事業採択され、緊急整備が図られることとなっておりますが、町民の生命と財産を守り、安全・安心なまちづくりを進めるため一刻も早い整備促進をしていただきますようお願いいたします。</p>	<p>岩崎川の床上浸水対策特別緊急事業については、平成27年度に芋沢川合流点から改修工事に着手し、上流に向け工事を進めています。</p> <p>今年度は、下海老沼橋と上海老沼橋の架け替え工事が完成するほか、JR橋梁から上海老沼橋までの改修工事を推進することとしております。</p> <p>県としては、貴町をはじめ関係機関との調整を図りながら、事業の早期完成に向けて取り組んで参ります。</p>	盛岡広域振興局	土木部	A

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>本町の人口は、前回2010年国勢調査まで増加の傾向にあったものの、今後は、他都市同様に人口減少や高齢化の傾向が予測され、平成26年5月に日本創生会議が公表した人口推計によると、27,205人（2010年）に比較し、21,508人（2040年）と約21%の減少と危機感をもって対応する必要があります。</p> <p>本町では、地方創生に向けた第7次矢巾町総合計画を策定しているところであり、“希望と誇りと活力にあふれ躍動するまち やはば”のキャッチフレーズを掲げ、持続的な成長を実現するまちを目指し、“将来に誇れるまちの創成”“将来を担うひとの創造”“将来の活力につながるしごとの創出”“将来にわたり躍動する力の創生”を将来像としております。</p> <p>矢巾町が、地方創生を進めていくためには、本町のもつ豊かな地域資源とあわせ、近隣都市との交流人口、物流の連携を拡大し地域を活性化していく必要があります、矢巾スマートICは本町にとって、多様な利活用が可能なゲートウェイとなるものと考えております。</p> <p>矢巾スマートIC及び町道堤川目線は、平成29年度から補助事業として採択、また予算確保していただき平成29年度供用開始に向け整備促進が図られますが、アクセス道路に関しましては、社会資本整備総合交付金の予算確保が必要となりますので、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。</p>	<p>矢巾スマートインターチェンジについては、既存の高速道路の利便性を高め、県民の安全で安心な暮らしを守り、活力ある地域社会の形成を図るために必要不可欠なものです。そのため、必要な予算を確保するよう国に要望しており、今後も貴町と連携を図りながら、整備促進が図られるよう国に対し要望していきます。</p> <p>また、矢巾スマートIC周辺道路のうち町道安庭線と県道の交差点については、右折レーン設置のための用地取得、物件補償等を貴町と連携を図っており、今年度から工事に着手しており、引き続き整備推進に努めていきます。</p> <p>なお、矢巾スマートインターチェンジについては、平成30年3月24日に開通しました。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>岩手医科大学附属病院の移転・開院が平成31年9月と決まり、また岩手県立盛岡となん支援学校など隣接地域の整備も進んでおります。</p> <p>矢巾町水道事業では岩手医科大学附属病院の移転地においては、東部浄水場からポンプ圧送により配水をしていいますが、住宅地を中心とした一部地域においては、集中した時間帯に水量が多くなることから、水圧の低下が問題となっている地域もあります。</p> <p>今後、昼間人口の増加並びに交流人口の増加にともなう水道使用量の増加が見込まれ、迅速に対応する必要があります。</p> <p>つきましては、岩手医科大学附属病院は岩手県の広域医療及び高度医療機関の施設であること、岩手県立療育センター及び岩手県立盛岡となん支援学校のいずれも県立の施設であることから、上下水道管等のインフラ整備に対して県単独による事業費の補助制度等による十分な財政支援措置を講じていただくよう、要望します。</p>	<p>上水道管の整備については、これまで県単独の財政支援等は行っておりませんが、矢巾町の水道事業が計画的に進むよう、国の生活基盤耐震化等交付金「水道施設耐震化等事業〔緊急時給水拠点確保事業(重要給水施設配水管)〕」の充実・拡充について、引き続き国へ要望していきます。</p> <p>市町村が実施する下水道事業については、社会資本整備総合交付金を充当しているほか、単独で実施する下水管路整備については、公共下水道事業債償還基金費補助を行っているところです。</p> <p>「社会資本整備総合交付金」の本県への配分額は、前年度を下回っていますが、矢巾町については、要望どおりとなっています。今後も引き続き、下水道整備を着実に推進するための予算確保について、国に要望していきます。</p> <p>公共下水道事業債償還基金費補助については、県の財政状況が厳しい状況にありますが、所要額の確保に努めていきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部、土木部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>岩手県においては、東日本大震災や今年の台風10号の自然災害により、水道施設も大きな被害を受け、仮復旧まで1ヶ月以上を要した地域もありました。このことから、災害に強いライフライン作りが急務となっております。</p> <p>水道事業においても、水道事業が始まってから約50年近く経過し、施設の耐震化とともに、水道管については老朽管の更新と併せて耐震化も求められています。これに併せ、水道事業経営の健全化も求められており、町では矢巾町水道事業ビジョン及び矢巾町水道事業経営戦略を策定し、計画的に老朽管の更新等に取り組み、本年度からは料金改定を行い利用者からも負担を頂いているところでありますが、今後予期せぬ修繕等が発生した場合、計画どおり更新事業が行えるか問題であります。</p> <p>つきましては、次の事項を実現されるよう要望します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>(1) 現在、補助率について事業費の1/3以内となっており、予算の関係上規定の補助割合を下回る状況にあることから、引続き予算確保に努力していただき、県も財政措置を講じ補助率の満額もしくは上乗せをし、交付すること。</p> <p>(2) 配水管の耐震化を促し、耐震化率向上のためにも上記交付金の対象について「基幹管路」となっているものを「配水管」の更新についても、交付要件の拡大もしくは、県単補助導入による財政措置を講ずること。</p> <p>(3) 施設及び付帯設備である電気計装施設等の耐震化についても、交付金の対象もしくは、県からも財政措置を講じること。</p>	<p>県としましても、重要なライフラインである水道施設の耐震化・更新等を計画的に行っていくためには、十分な予算の確保と国庫補助要件の緩和が必要であると認識しており、これまで国への要望活動を実施してきたところですが、引き続き、矢巾町の水道事業が計画的に進むよう、取り組んでいきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>保健福祉環境部</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>各学校の洋式トイレの設置率は、徳田小学校16%、煙山小学校25%、不動小学校24%、矢巾北中学校21%とかなり低い状況であります。</p> <p>昨今、多くの家庭でトイレは洋式化されており、学校で和式トイレを利用できない子供や、衛生上の問題、ユニバーサルデザインへの対応などのため、トイレの洋式化が喫緊の課題であると考えております。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>町内の小学校のうち、3校が昭和45年から昭和56年に建設されており、トイレはほぼ和式トイレで、設備も老朽化しているほか、平成7年建設の中学校も、ほぼ和式トイレとなっております。つきましては、以下の事項を要望いたします。</p> <p>(1) 本町は、文部科学省国庫補助事業 学校施設環境改善交付金の「トイレ環境の改善をするため一体または単独に行うもので、全体的に改修を行う事業」に申請を行っておりますが、その採択に対しご配慮をお願いしたい。</p>	<p>近年、国の公立学校施設整備事業に関する予算額が、全国の自治体の計画する事業に必要な額を下回っており、採択が見送られる事業も出るなど計画的な学校施設の整備が困難となっていることから、必要な予算額が当初予算において十分に確保されるよう、引続き国に対して要望していきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>教育事務所</p>	<p>B</p>

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>各学校の洋式トイレの設置率は、徳田小学校16%、煙山小学校25%、不動小学校24%、矢巾北中学校21%とかなり低い状況であります。</p> <p>昨今、多くの家庭でトイレは洋式化されており、学校で和式トイレを利用できない子供や、衛生上の問題、ユニバーサルデザインへの対応などのため、トイレの洋式化が喫緊の課題であると考えております。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>町内の小学校のうち、3校が昭和45年から昭和56年に建設されており、トイレはほぼ和式トイレで、設備も老朽化しているほか、平成7年建設の中学校も、ほぼ和式トイレとなっております。つきましては、以下の事項を要望します。</p> <p>(2) 今後、平成29年度の国の補正予算で、上記の補助事業が追加されることがあった場合には、本町の苦しい財政事情を斟酌していただき、その採択に当たり特段のご配慮をお願いしたい。</p>	<p>近年、国の公立学校施設整備事業に関する予算額が、全国の自治体の計画する事業に必要な額を下回っており、採択が見送られる事業も出るなど計画的な学校施設の整備が困難となっていることから、必要な予算額が当初予算において十分に確保されるよう、国に対して要望しているところであり、加えて、各自治体が計画する全ての事業が実施できるよう、補正予算においても財源の確保を図るよう、全国の都道府県と連携し要望を行っているところです。</p> <p>今後ともご要望の趣旨を踏まえて、引続き国に対して働きかけを行ってまいります。</p>	盛岡広域振興局	教育事務所	B
<p>昨年度の成果は好評であり、花の入植には約300人が参加しました。</p> <p>この事業を廃止した場合、昨年と比較して当地区の景観に差が生じ、住民協同の機を逸することとなります。盛岡広域振興局と本町の連携でこの事業を継続し、岩手県景観計画にある「岩手の景観を構成する要素」を保ち、また同計画の「ひとづくりの推進」に寄与し、より有意義な景観形成活動を継続したいと考えます。</p> <p>つきましては、県道不動盛岡線の区間を「花の道」として県内の秋の名所とするべく、本県道沿線の植栽整備について、ご配慮いただきますよう要望いたします。</p>	<p>一般県道不動盛岡線沿道において、貴町が実施している植栽整備については、県でも支援しているところであり、今年度も複数回の草刈りを実施するなど、引き続き支援することとしています。</p>	盛岡広域振興局	土木部	A

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>地域経営推進費については、予算額が小規模であるため、地域経営推進の目的に合致しても、大規模な事業であれば採択されにくい、又は採択されても補助率が低くなる傾向があると認識しております。</p> <p>このため、複数の希望事業がある場合、大規模事業については申請自体を見送り、結果的に地域の課題解決が先送りされてしまう傾向にあります。</p> <p>以上のことから、地域経営推進費の運用目的を達成するために、予算額増額のご配慮を要望いたします。</p>	<p>地域経営推進費については、各市町村からの要望を踏まえ、地域課題に即した、より実効性の高い施策に対応できるよう、広域振興局において予算の効率的な配分に努めているところです。</p> <p>県と市町村が連携し、地域の特色を生かした地域振興が図られるよう、引き続き予算の確保に努めていきます。</p>	盛岡広域振興局	経営企画部	B
<p>矢巾町は保険者として、これまで収納率向上に努め、法定外繰入もせず、健全に国保会計を運営してまいりました。しかし、国民健康保険制度の改革により矢巾町が県に負担する国保事業費納付金の試算では、保険税を増額しなければ納付が難しいと見込んでおります。</p> <p>健全な国保会計を維持してきた本町の住民に負担を転嫁することはできませんので、保険税水準の統一化を実施するまでの間、国保事業費納付金の基礎となる標準保険料率に対する矢巾町の保険税の不足額について、激変緩和措置にて補填いただくよう要望します。</p>	<p>激変緩和措置については、県と市町村等で構成する広域化等支援方針推進連携会議において協議した結果、次の内容により実施することとしました。</p> <p>(1) 激変緩和の期間 財政安定化基金のうち激変緩和用分の活用期間である、平成35年度までの6年間を基本とし、3年ごとの岩手県国民健康保険運営方針の見直しの中で検討する。</p> <p>(2) 激変緩和措置の内容 ① 新制度が始まる平成30年度においては、円滑な移行を図るため、制度施行当初に市町村の保険税が急激に増加することがないように最大限配慮する必要があることから、平成28年度の保険税と同水準まで激変緩和を講じる。 ② 平成31年度以降については、激変分を徐々に解消していくため、平成28年度の保険税負担を基準として一定割合を設定し、一定割合を超えて増加する市町村に対して、その超える分に対して激変緩和を講じる。 その一定割合については、当該年度の納付金・標準保険料率の算定結果、激変緩和に活用できる財源等を踏まえて、市町村との協議により、毎年度決定する。</p>	盛岡広域振興局	保健福祉環境部	A

矢巾町

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>一般県道矢巾西安庭線の岩手流通センターから矢巾町西部工業団地までの区間について、平成10年頃から矢巾町施行による西部工業団地の造成と併せ、車道拡幅及び両側歩道新設を岩手県施行で整備しておりました。本路線は、主要地方道盛岡和賀線や盛岡南インターチェンジ、平成30年3月供用開始予定の矢巾スマートインターチェンジから雫石町へアクセスする重要な幹線道路であり、地域には南昌台団地や盛岡市の湯沢団地があることから住民の通勤通学のために利用している生活道路でもあります。</p> <p>しかしながら、約150mの一部区間において片側の歩道がいまだに未改良であり、歩行者等はその前後において車道を横断せざるを得ない状況となり非常に危険であることと、降雨時には側溝が未整備であることから雨水排水機能の確保がなされていない状況にあります。</p> <p>つきましては、児童生徒の通学路としての安全な通行を確保するため歩道を整備するとともに、大雨などによる隣接する住宅や農地への浸水を防ぐため、未改良区間の早期整備を要望いたします。</p>	<p>歩道設置については、各地域から多くの要望があることから、必要性や緊急性の高い箇所から整備を進めています。ご要望の箇所については、今後の交通量の推移、地域の沿道状況や県全体の進捗状況等を踏まえ検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。(C)</p> <p>なお、排水対策については、順次、応急的に改善を図りました。(A)</p>	盛岡広域振興局	土木部	A、C